

児童労働という束縛を断ち切る スワプナ・マジュムダール（インド）

ガンドラ・マレシュワリの両親は、彼女を学校に通わせることは一度もありませんでした。1999年にマレシュワリの母親が亡くなると、父親はマレシュワリや5人の子どもたちを手放し、子どもたちは亡くなった母親の兄弟のもとに引き取られました。そして、インドの南部にあるアンドラ・プラデーシュ州のランガー・レッディ県にある小さな村で暮らすようになりました。

ここでも、マレシュワリのおじは教育が重要だとは考えず、彼女を学校に通わせるようなことはしませんでした。それどころか、彼女のおじは牛の世話という仕事をマレシュワリに与えたのです。よその女の子たちが勉強しに学校に通う姿を見ながら、彼女は家畜の世話をしていたのです。11歳のマレシュワリができることといえば、自分もあの女の子達のようになりたいと願うことだけでした。自分の人生がもうすぐ変わるなど、この時の彼女は夢にも思っていなかったのです。

1999年頃、MV基金のボランティアが、ランガー・レッディ県で学校に通っていない子どもたちの実地調査を進めていました。MV基金とは、アンドラ・プラデーシュ州の州都であるハイデラバードに拠点を置く非政府組織で、1991年から、学校に通っていない子どもたちを学校に通わせるための活動をしていました。この調査の最中に、MV基金のボランティアがマレシュワリの噂を耳にしたのです。

2001年の国勢調査によると、アンドラ・プラデーシュ州は、児童労働の数がインド国内で2番目に多く、労働に従事する子どもの数は136万3千人を上回りました。また、同調査によると、ランガー・レッディ県では、労働に従事する5歳から14歳の女子児童の数は410,882人に上りました。労働局の担当者は2012年に、政府やMV基金のような非政府組織の介入により、この数字は大幅に減少したと主張しています。

しかしながら、1999年当時の状況は大変厳しいものでした。MV基金のボランティアがマレシュワリに会い、彼女が勉強に興味を持っていることを知ると、そのボランティアはまずは「レジデンシャル・ブリッジ・コース・キャンプ（RBC）」に彼女が参加することを許可するよう、マレシュワリのおじを説得しました。これは、彼女が政府の学校の年齢に応じたしかるべきクラスに参加できるようにすることを狙ったものでした。RBCで1年勉強した後、マレシュワリは、近隣の政府の学校の7学年に参加するようになりました。

以降、過去を振り返ることなく勉強に励みました。固い決意を持って懸命に勉強し、才能もあったマレシュワリは、2010年に大学を卒業すると同時に、重大な転機を迎えることとなりました。マレシュワリは、ハイデラバードに拠点を置く地方のTVニュースのチャンネルであるHMTVから、女性のカメラスタッフに選ばれたのです。マレシュワリは州で初めての女性のカメラスタッフとなったのです。

児童労働から助け出された貧しい少女にとって、これは人生の大きな転機となりました。「私はかつてヤギや牛の世話をしていました。勉強ができるようになるなんて、夢にも思っていませんでした。けれども、チャンスを手にした後、そのチャンスを最大限に活かそうと固い決意で臨みました。自分が他の人に劣らないということを証明したかったのです。」とマレシュワリは話しました。



ガンドラ・マレシュワリ

経済的な自立を果たしたおかげで、マレシュワリは自分の年下の兄弟を教育面でサポートすることができるようになりました。さらに、自分と同じように、貧困や勉強する機会に恵まれないことが原因となって、労働を強制されている他の子どもたちを助けたいと考えました。マレシュワリは HMTV で勤務するかたわら、児童労働に関するプログラムを進めました。このプログラムがきっかけとなり、MV 基金は困難な環境にいる子どもたちのために電話相談サービスを立ち上げました。このサービスが開始されたことにより、労働を強制されている多くの子どもたちが救われることとなりました。マレシュワリはこうした事例を報道して取り上げることでこの運動を支援し、さらに救われた子どもたちが RBC に参加できるようにしました。

マレシュワリは児童労働から救われた多くの子どもたちを象徴する存在となりました。また、アンドラ・プラデーシュ州で発行されている地元の新聞に、彼女の生い立ちが掲載されました。23 歳になったマレシュワリの現在の月収は 16,000 ルピー（320 米ドル）ですが、彼女は自分の成功に安んずるようなことはしません。

現在、ハイデラバードを拠点とする地元の TV チャンネルであるテランガナ・ニュース・ネットワークで働きながら、マレシュワリは社会問題の解決にさらに力を入れています。彼女は歌を通じた児童労働に関する意識向上の活動にも取り組んでいます。歌の上手なマレシュワリは、これまで児童の問題に関する 11 枚のアルバムや子どもたちにささげる歌をレコーディングしています。さらには、さまざまな公の討論会に参加し、教育のおかげで彼女の人生がいかに変化したかを話しています。「教育を受けない人生がどんなものなのか、私にはわかります。教育の機会を奪われた子どもたちを、私はできるだけ多く助けたいのです。そしてこの目的を達成するために、私に使える手段なら私は何でも使うつもりです。」